

29 蛇々窟の大蛇

伝承地：泉町



(蛇々窟と呼ばれた付近)

に詣でる人々を驚かせていた。地神である宇都宮の明神様（豊城入彦命）が、いくらたしなめても大蛇のいたずらは治まらなかった。

ある時、徳次郎（智賀都神社）の明神様（大己貴命）が宇都宮明神に来てその話を聞き、神代の神の威光を以って大蛇を鎮めたと伝えられている。

宇都宮の泉町付近に蛇々窟と呼ばれている場所があった。それは、「桂林寺の東南、延命院の北」（宇都宮史料）とあるので、現在、釜川の東（下野新聞社）あたりであったと思われる。

この蛇々窟には、その名のとおり蛇に関する伝承がある。

むかし、蛇々窟に、1000年以上も経たと思われる大蛇が住んでいた。大蛇は、時々姿を現わし、宇都宮の人々や宇都宮明神（二荒山神社）



30 篠井の池

伝承地：篠井町607

話者：12



(篠井の池)

できなかつた。しかし、なかなかのどを潤す水は見つからなかつた。

そこで、大師は篠の生い茂っている場所に分け入って、とある所に立ち止まった。その瞬間、大師の足もとからこんこんと水がわき出したという。

これが、後に池となり弁天池と呼ばれるようになり、弘法大師が篠の中に井戸を見つけた所から、このあたりを篠井と呼ぶようになったという。

日光街道（国道119号）を北上すると釜川の水源になっている弁天沼があるが、さらに北の篠井町にも弁天と称する小さな池がある。

この池には、往時、弘法大師が立ち寄ったという言い伝えがある。

諸国行脚を続けた大師は、男体山に登り修業を重ねることを志し、この地を通りかかったところ、旅の疲れからが大変にのどが渇きなんともがまんすることが

